

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長

令和 5 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和 5 年度 香川県病害虫発生予察特殊報 第 1 号

1. 病害虫名： トマトキバガ (*Tuta absoluta* (Meyrick))

2. 発生地域： 高松市、綾川町

3. 発生経過

令和 5 年 7 月 11 日、農業試験場病害虫防除所の圃場(綾川町)に設置しているトマトキバガの侵入調査用のフェロモントラップにおいて、本種疑義成虫 1 頭の誘殺が確認された(写真 1)。

誘殺された成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、7 月 14 日に、本県では未発生のトマトキバガであることが確認された。

また、同年 7 月 11 日、神戸植物防疫所坂出支所が高松空港(高松市)に設置しているフェロモントラップにおいても、本種疑義成虫 2 頭の誘殺が確認され、7 月 13 日にトマトキバガであることが確認されている。

なお、県内では現在のところ農作物の被害は確認されていない。

4. 国内外の発生状況

本種は南アメリカ原産であるが、平成 18 年にスペインへの侵入が確認されて以降、ヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、西アジア、アラビア半島、インド、ネパール、東南アジアに分布を拡大し、令和 3 年までに台湾、中国、中央アジア諸国等の近隣地域でも発生が確認されている。

国内では、令和 3 年に熊本県で初めて確認されて以降、当県を含め計 20 道県で確認されている。

5. 形態および生態

- (1) 成虫(写真 2)は、翅を閉じた静止時で体長 5～7 mm(前翅長約 5 mm、開張約 10 mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一律に淡黒褐色である。幼虫(写真 3、4)は、終齢で約 8 mm。体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。
- (2) 1 年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に 10～12 世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は 24～38 日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうちに平均約 260 個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は 1 齢から 4 齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

6. 被害の特徴

トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物である。マメ科のいんげんまめも、寄主植物として確認されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる(写真5)。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する(写真6)。

7. 防除対策

- (1) 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) トマトキバガの発生が疑われた場合は、病害虫防除所(TEL087-814-7317)に連絡する。
- (3) 発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実は圃場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (4) 現在、トマトキバガに対する登録農薬は表1、2のとおり。

また、植物防疫法第29条第1項に基づく措置として、表3に記載された農薬により防除することができる。

なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う。



写真1 フェロモントラップで誘殺された成虫



写真2 トマトキバガの成虫



写真3 トマトキバガの幼虫(終齢)



写真4 トマトキバガの幼虫(終齢)



写真5 トマト葉の食害痕



写真6 トマト果実の食害痕

写真1：香川県病害虫防除所

写真2～6：農林水産省植物防疫所原図・無断転載禁止

表 1
○トマト

IRAC コード	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍率又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC		2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アグリメック	アバメクチン乳剤	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF	BT水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布
13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC		400株当り25mL (希釈水量400株当り 10～20L)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	プリロツソ粒剤	シアントラニプロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	プリロツソ粒剤オメガ		2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨーバルフロアブル	テトラニプロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

表 2
○ミニトマト

IRAC コード	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍率又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC		2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF	BT水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布
13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC		400株当り25mL (希釈水量400株当り 10～20L)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	プリロツソ粒剤	シアントラニプロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	プリロツソ粒剤オメガ		2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨーバルフロアブル	テトラニプロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

表3
○なす

IRAC コード	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍率又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
1B	カルホス粉剤	イノキサチオン粉剤	6kg/10a	は種時又は植付時	2回以内	土壌表面散布 土壌混和 処理
	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	6～9kg/10a	は種時又は植付時	2回以内	土壌混和
	ダイアジノン粒剤5		4～6kg/10a	は種時又は定植時	2回以内	全面土壌混和又は作条 土壌混和
3A	テルスタージェット	ビフェントリンくん煙剤	くん煙処理室の容積400 m ³ (床面積200m ² ×高さ 2m)当り48g	収穫前日まで	3回以内	くん煙
	ガードベイトA	ベルメトリン粒剤	3kg/10a	生育初期	3回以内	株元散布
	野菜ひろばN		3kg/10a	生育初期	3回以内	株元散布
3A 1B	アーデント水和剤	アクリナトリン水和剤	1000倍	収穫前日まで	4回以内	散布
3A 1B	ハクサップ水和剤	フェンバレーレト・マラソン水和剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
4A 3A UN	ベニカXネクストスプレー	還元澱粉糖化物・クロチアニジン・ピリダリル・ベルメ トリン・マンデストロピン水和剤	原液	収穫前日まで	3回以内	散布
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC		2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アフーム乳剤	エマメクテン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	アニキ乳剤	レピメクテン乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
6 15	アフームエクセラ顆粒水和剤	エマメクテン安息香酸塩・ルフェスロン水和剤	1500倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6 28	ボリアムガンダム顆粒水和剤	エマメクテン安息香酸塩・クロラントリニプロール水 和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	2000倍	収穫前日まで	4回以内	散布
15	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	カウンター乳剤	ノバルロン乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	4回以内	散布
	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	2000～4000倍	収穫前日まで	4回以内	散布
	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	2000倍	収穫前日まで	4回以内	散布
	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
18	ファルコンフロアブル	メトキシフェノジド水和剤	2000～4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	プレバソフロアブル5	クロラントリニプロール水和剤	100倍(使用液量25mL/ 株)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	プレバソフロアブル5		2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	プレバソ粒剤	クロラントリニプロール粒剤	1g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	400株当り25ml(希釈水 量400株当り10～20L)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	ヨーバルフロアブル	ネトラニプロール水和剤	200倍(使用液量25mL/ 株)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	ヨーバルフロアブル		2500～5000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	フェニックスジェット	フルベンジアミドくん煙剤	くん煙室容積400m ³ (床面 積200m ² ×高さ2m)当り 50g	収穫前日まで	3回以内	くん煙
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	
28 4A	ミネクトデュオ粒剤	シアントラニプロール・チアメトキサム粒剤	2g/株	鉢上げ時～育苗期後半	1回	株元散布
30	グレーション乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	4回以内	散布

病害虫防除所 インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboujo/index.html>

